

平成30年12月20日

山口県教育委員会会議議案

山口県教育委員会



## 議案

番号	件名	主管課
1	「県立高校再編整備計画 平成31年度～平成34年度（2019年度～2022年度）実施計画」の策定について	高校教育課

議案第1号

「県立高校再編整備計画 平成31年度～平成34年度  
(2019年度～2022年度) 実施計画」の策定について

「県立高校再編整備計画 平成31年度～平成34年度(2019年度～2022年度) 実施計画」を別添のとおり策定する。

平成30年(2018年)12月20日

山口県教育委員会

# 報告事項

番号	件名	主管課
1	平成31年度(2019年度)山口県立学校職員(実習助手・寄宿舎指導員)採用候補者選考試験の結果について	教職員課
2	平成30年度山口県学力定着状況確認問題の結果について	義務教育課
3	平成31年3月新規高等学校等卒業予定者の就職内定状況等について	高校教育課
4	平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について	学校安全・体育課
5	世界遺産暫定一覧表記載資産候補「錦帯橋」の提案書について	社会教育・文化財課

年度	件名	担当	備考
2019	...	...	...
2018	...	...	...
2017	...	...	...
2016	...	...	...
2015	...	...	...
2014	...	...	...
2013	...	...	...
2012	...	...	...
2011	...	...	...
2010	...	...	...
2009	...	...	...
2008	...	...	...
2007	...	...	...
2006	...	...	...
2005	...	...	...
2004	...	...	...
2003	...	...	...
2002	...	...	...
2001	...	...	...
2000	...	...	...

平成31年度(2019年度)山口県立学校職員(実習助手・寄宿舎指導員)採用  
候補者選考試験の選考結果について

教職員課

記

## 1 概要

実習助手志願者については、71人のうち、63人が受験し、選考の結果、13人を採用候補者名簿の登載予定者としました。

寄宿舎指導員については、志願者13人のうち、11人が受験し、1人を登載予定者としました。

倍率は、実習助手が4.8倍、寄宿舎指導員が11.0倍となりました。

職種、選考区分、志願区分別の採用候補者名簿登載予定者数、倍率等は、次のとおりです。

職種	選考区分	志願区分	志願者数	受験者数		倍率	
				A	B		
実習助手	一般選考	普通教科	37 (38)	32 (30)	5 (2)	6.4 (15.0)	
		農業	生産系	11 (-)	10 (-)	1 (-)	10.0 (-)
			土木造園林業系	3 (8)	3 (8)	1 (1)	3.0 (8.0)
		工業	機械系	10 (10)	9 (7)	2 (2)	4.5 (3.5)
			電気系	3 (3)	3 (3)	1 (2)	3.0 (1.5)
			化学工業系	1 (-)	1 (-)	1 (-)	1.0 (-)
			土木建築系	3 (5)	3 (5)	1 (1)	3.0 (5.0)
		看護	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1.0 (-)	
		身体障害者を対象とした選考	一般選考の志願区分と同じ	1 (1)	1 (1)	0 (0)	- (-)
		合計			71 (68)	63 (57)	13 (9)
寄宿舎指導員			13 (15)	11 (12)	1 (1)	11.0 (12.0)	

注・( )内の数字は、昨年度のもの。

## 2 その他

教員採用予定者と同様、採用予定者を対象に着任するまでの心構え等について学ぶ研修を、12月27日(木)、28日(金)に実施します。

《参考》

平成31年度（2019年度）山口県立学校職員（実習助手・寄宿舍指導員）採用候補者選考試験の実施について

教職員課

1 選考区分、志願区分、採用見込者数及び職務の概要

職種	選考区分	志願区分	採用見込者数	職務の概要	
実習助手	一般選考	普通教科	3人程度	普通教科の実験又は実習について、教諭の職務を助ける。	
		農業	生産系	1人程度	農業の実験又は実習について、教諭の職務を助ける。
			土木造園林業系	1人程度	
		工業	機械系	2人程度	工業の実験又は実習について、教諭の職務を助ける。
			電気系	1人程度	
			化学工業系	1人程度	
	土木建築系		1人程度		
看護	1人程度	看護の実験又は実習について、教諭の職務を助ける。			
身体障害者を対象とした選考	一般選考の志願区分と同じ	1人程度	一般選考の「職務の概要」と同じ		
寄宿舍指導員			1人程度	特別支援学校の寄宿舍における児童、生徒の日常生活上の世話及び生活指導（食事、入浴等日常生活全般に関わる指導）に従事する。（夜間勤務有り。）	

2 受験資格

昭和44年4月2日から平成13年4月1日までに生まれた者  
 実習助手（農業・工業・看護）については、別に資格要件が必要

3 志願書類等の受付期間

平成30年9月5日（水）から9月26日（水）まで

4 試験の期日・場所

- (1) 期日 平成30年10月28日（日）
- (2) 場所 山口県セミナーパーク

5 試験の内容

- (1) 実習助手（普通教科）・寄宿舍指導員  
 教養試験、小論文、面接、適性検査
- (2) 実習助手（農業・工業・看護）  
 教養試験、専門教科試験、面接、適性検査

6 採用候補者名簿登載予定者の発表等

- (1) 日時 平成30年11月22日（木）午前9時
- (2) 内容 採用候補者名簿登載予定者の受験番号を掲載
- (3) 場所 山口県庁エントランスホール  
 山口県教育委員会の教職員課のホームページ

平成30年度学力定着状況確認問題結果について【概要版】

山口県教育庁義務教育課

平成30年12月

1 実施概要

(1) 目的

児童生徒の客観的な学力状況の経年的な把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等の取組の充実を図る全県的な検証改善サイクルを確立し、県内全ての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図る。

(2) 実施期日

平成30年10月24日(水) ※学校の状況に応じて、10/22~10/26の期間に実施

(3) 実施対象及び実施内容

①小学校

学 年	実施人数	内 容 (時間)	
第4学年	10,912人	国語、算数(各40分)	及び質問紙
第5学年	11,003人	国語、算数、社会、理科(各40分)	及び質問紙
第6学年	10,925人	国語、算数(各40分)	及び質問紙

②中学校

学 年	実施人数	内 容 (時間)	
第1学年	10,181人	国語、数学(各45分)	及び質問紙
第2学年	10,481人	国語、数学、社会、理科、英語(各45分)	及び質問紙

2 教科の問題に関する結果

(1) 平均正答率

①小学校

	国 語	算 数	社 会	理 科
第4学年	59.9%	57.6%		
第5学年	61.8%	56.4%	63.1%	58.6%
第6学年	59.1%	62.3%		

②中学校

	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
第1学年	67.7%	64.0%			
第2学年	59.3%	50.0%	49.2%	48.4%	54.6%



(2) 教科の問題結果から見られる特徴

- 基礎的・基本的な内容を問う問題については、概ね成果や改善傾向が見られる。
- 基礎的・基本的な内容を活用して具体的な場面について考察する問題や記述式の問題には、依然として課題が見られる。

		主な成果	主な課題
小学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な漢字を正しく読むこと</li> <li>○段落の内容を的確に捉え、適切な接続詞の使い方を理解すること</li> <li>○目的に応じて、中心となる語を捉えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主語と述語の関係に気を付けて、一文を二文に分けること</li> <li>●文章を引用して書くこと</li> <li>●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら書くこと</li> <li>●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、要約しながら読むこと</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な四則計算をすること</li> <li>○比例関係に着目し、正六角形の周りの長さを求めること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●折れ線グラフの目盛りの取り方を考えること</li> <li>●割合の内容を理解すること</li> <li>●問題場面について情報を整理し、理由や方法等を説明すること</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地図記号が表している建造物を判断すること</li> <li>○会話文に関わる適切な資料を判断すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報をもとに説明すること</li> <li>●日本の位置を大陸の名称等を活用して、説明すること</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゴムのはたらきについて、目的に応じて予想を設定すること</li> <li>○メダカの生育に適した環境について、理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●虫めがねで日光を集めたときの明るさと紙の様子について、理解すること</li> <li>●インゲンマメが育ってしおれた子葉が、種子のどの部分にあたるかを理解すること</li> <li>●ゴムの働きについて、実験を比較する際の条件を判断すること</li> </ul>
中学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと</li> <li>○時と場に応じて、適切な敬語を使うこと</li> <li>○知りたいことを明らかにし、話の流れの中で質問すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内容を的確に捉え必要な情報を取り出すこと</li> <li>●古文と現代語訳とを対応させて内容を捉えること</li> <li>●文脈に即して正しく漢字を書くこと</li> </ul>
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比例の意味を理解すること</li> <li>○展開図から立体を読み取ること</li> <li>○度数分布表を理解すること</li> <li>○考察の対象になっている数量を捉えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基準量を求めること</li> <li>●求めたい数量を、式を使って表すこと</li> <li>●円柱の表面積を求めること</li> <li>●判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や資料から必要な情報を正しく読み取ること</li> <li>○時代ごとの主な人物を理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報を関連付けて説明すること</li> <li>●示された条件に従って、社会的事象の特徴等について説明すること</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○葉緑体の意味を理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物質の識別方法とその結果の見取り方を理解すること</li> <li>●学習内容と身の回りの生活との関連を認識すること</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語を聞いて絵の状況を適切に表しているものを選ぶこと</li> <li>○英文を読み、その内容が適切な順に並べられたものを選ぶこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文脈に合うように内容を考えて、英文を書くこと</li> <li>●英語で書かれた情報を読み取り、質問に英語で答えること</li> </ul>

(3) 特徴的な問題例

○成果や改善傾向の見られた問題

【問題例①】国語 小学校4年 **2**一

目的に応じて、中心となる語を捉えること 正答率：89.2%

仕事は大きく分けて5つ		【生活スキル】
1日の流れ	午前8時 交代	
	9時 くん祿、煮けん	
	12時 昼食	
	午後1時 A	
	6時 夕食、お風呂	
	8時 勉強、トレーニング	
	10時 交代でわる	
	午前7時 寝てそうじ	
消ぼう車…1500リットルの水		
きゅう急車…3人で出発、煮てきの道具や薬		

【ようこさんのメモ】のAに入る言葉を、【消ぼう士さんのお話】の中からぬき出して書きましょう。

【正答】パトロール

【問題例②】数学 中学校2年 **2**(1)

整式どうしの減法の計算をすること 正答率：74.3%

-2(x-3y)-(x-5y) を計算しなさい。 【正答】 -3x+11y

過去の調査における同様の問題の正答率  
H29 確認問題 : 53.5%

●課題の見られた問題

【問題例③】国語 中学校2年 **3**二

古文と現代語訳とを対応させて内容を捉えること 正答率：19.5%

小僧（弟子）の話した言葉にあたる部分を、【原文】から書き抜き、はじめと終わりの五字を書きなさい。

【現代語訳】 (略) 弟子が、「空の星がほしいので、たたき落とそうとするが、落ちない」とこたえと、(略)

【原文】 (略) 空の星がほしさに、うちおとさんとすれども落ちぬと。(略)

【正答】「空の星がほ〜ども落ちぬ」

【問題例④】算数 小学校6年 **12**

割合の内容を理解すること 正答率：23.2%

全国調査における同様の問題の正答率  
H30 全国調査 22.4%

あきらさんは、学校で1週間にけがをした人数について調べました。

グラフ1

学年	人数
1・2年生	35
3・4年生	30
5・6年生	45

あきらさんたちは、グラフ1とグラフ2を見て次のようにまとめました。

- ・けがをした人数が一番多いのは **ア** です。
- ・ **ア** のけがをした人数の割合は、一番 **イ** です。

上の **ア** にあてはまるものを、下の1から3の中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の **イ** にあてはまるものを、下の4と5から選んで、その番号を書きましょう。

**ア** 1 1・2年生

2 3・4年生

3 5・6年生

**イ** 4 小さい

5 大きい

【正答】ア 3 , イ 4 (完答)

### 3. 児童生徒質問紙調査の結果

#### 【質問紙調査結果から見られる特徴】

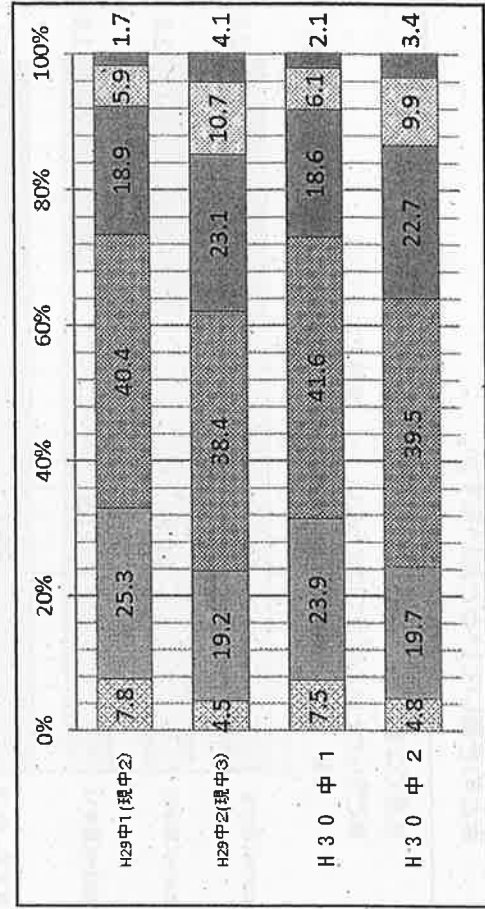
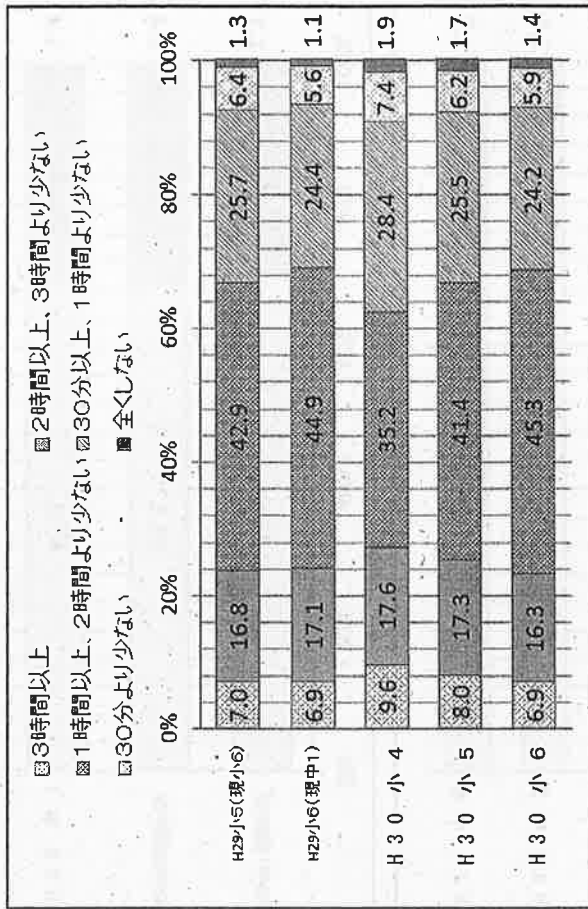
○ 学校の授業時間以外に、1時間以上勉強していると回答した児童生徒の割合を、前年度と同集団の割合と比較すると、多くの学年で、前年度より増加している。一方で、自分で計画を立てて勉強していると肯定的に回答した児童生徒の割合は、減少傾向にある。家庭等で計画的に学習を進められるような児童生徒への働きかけを行うとともに、引き続き家庭との連携の充実を図る。【質問①②】

○ 授業で使うノートやプリントに学習のめあてやまとめを書いていると肯定的に回答した児童生徒の割合は、多くの学年で前年度より増加している。この結果と比較すると、授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると肯定的に回答した児童生徒の割合はやや少ない。児童生徒が授業で主体的に学ぶことができるよう、引き続き、学習の見通しを立てたり、まとめや振り返りを行ったりする活動の充実を図る。【質問③④】

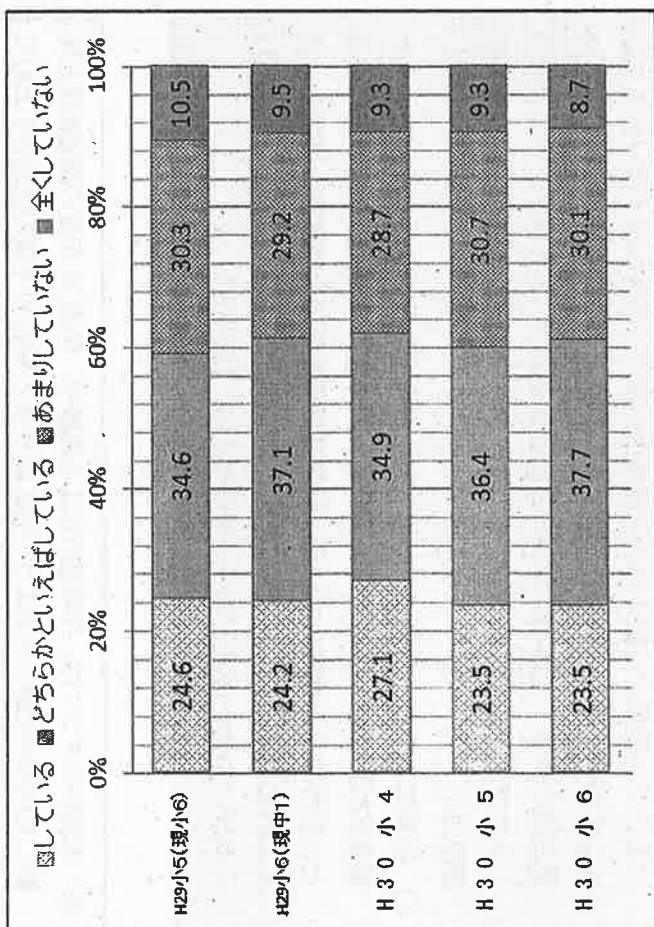
○ 授業において、課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいると肯定的に回答した児童生徒の割合を、前年度と同集団の割合と比較すると、前年度より増加している。新学習指導要領の全面実施を見据え、求められる資質・能力を確実に育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を一層推進する。【質問⑤】

※ 本資料のグラフは、学年進行による推移や、平成29年度の調査結果と比較した状況が把握できるよう、平成29年度と平成30年度の結果をまとめて掲載しています。

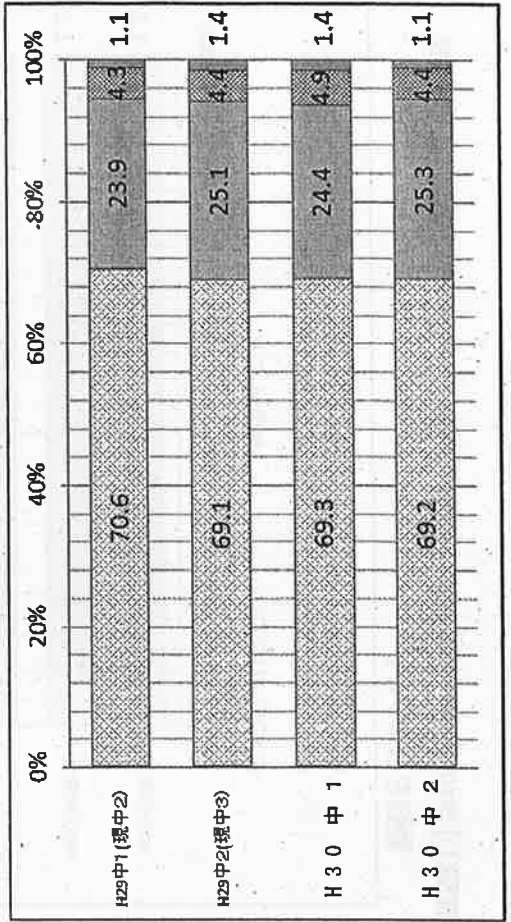
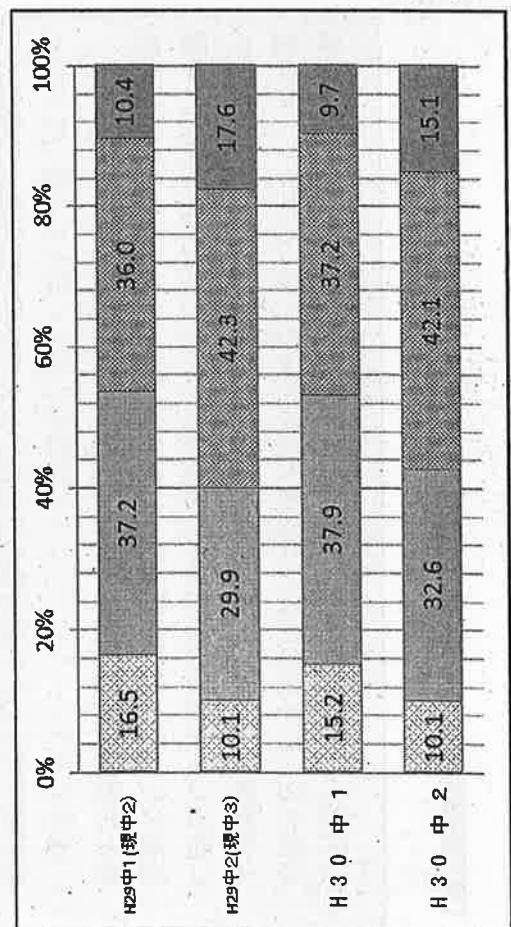
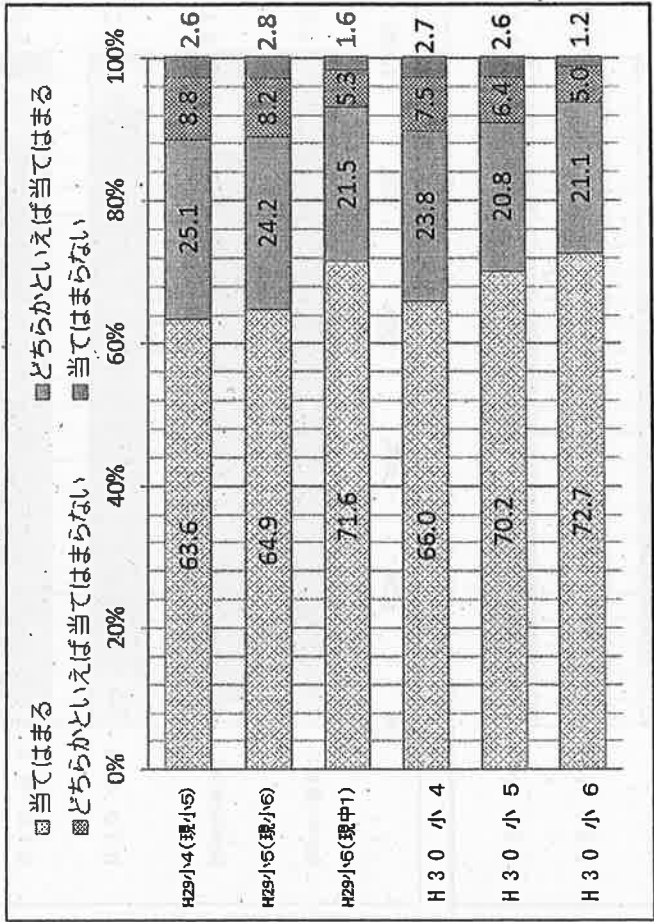
#### 【質問①】学校の授業時間以外に、普段（平日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



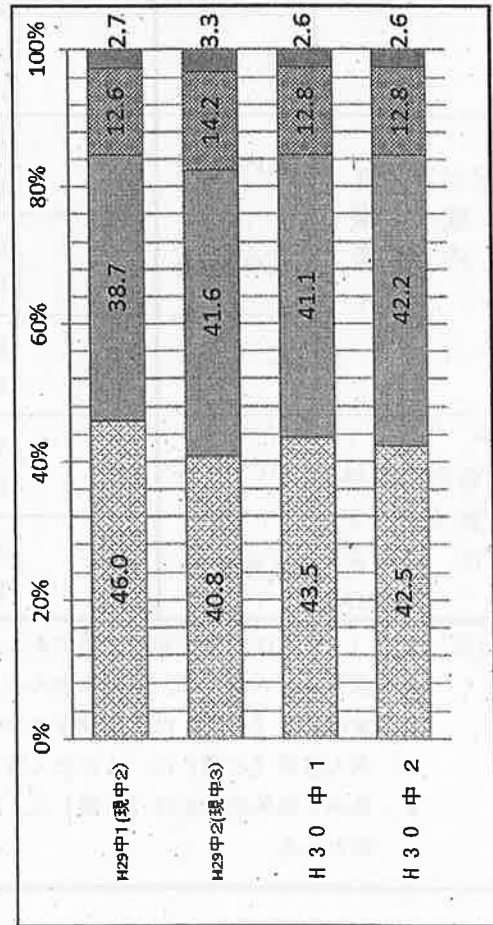
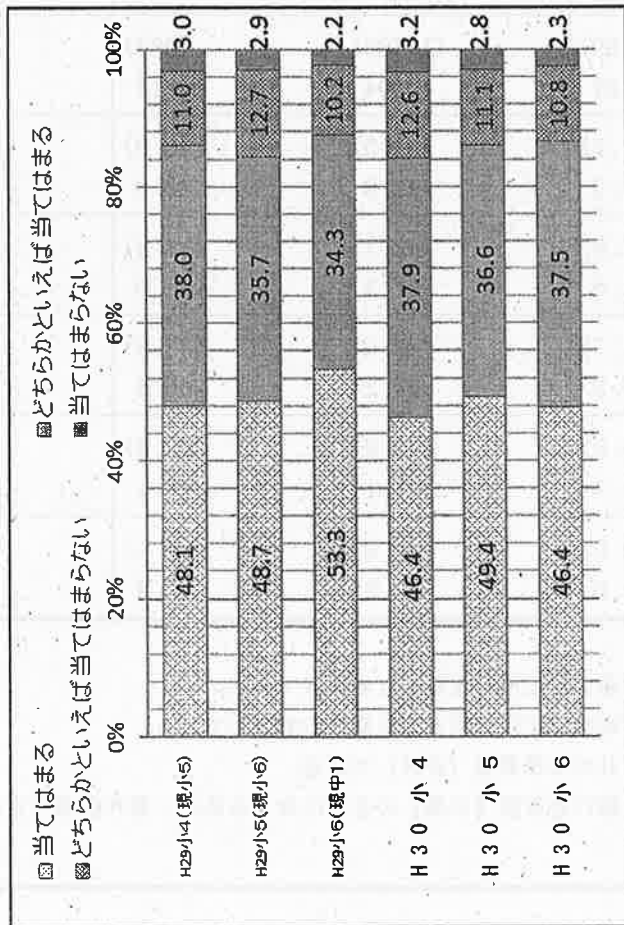
【質問②】家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



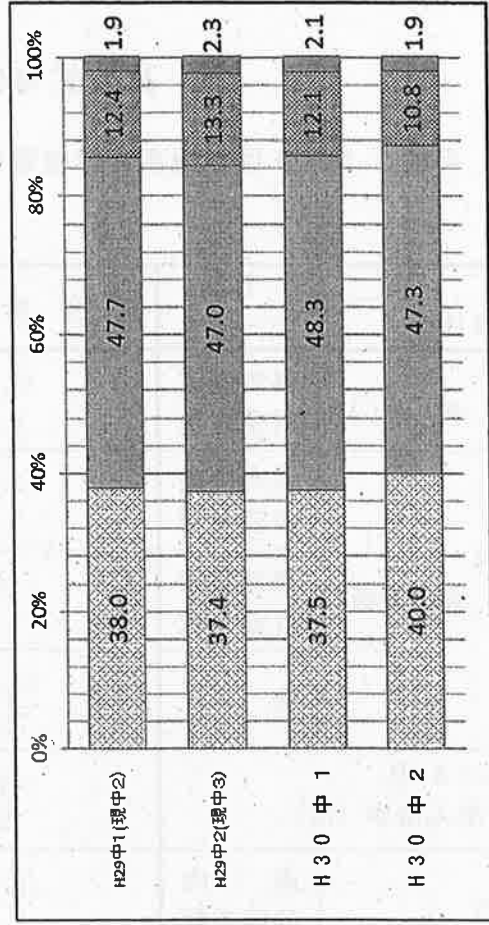
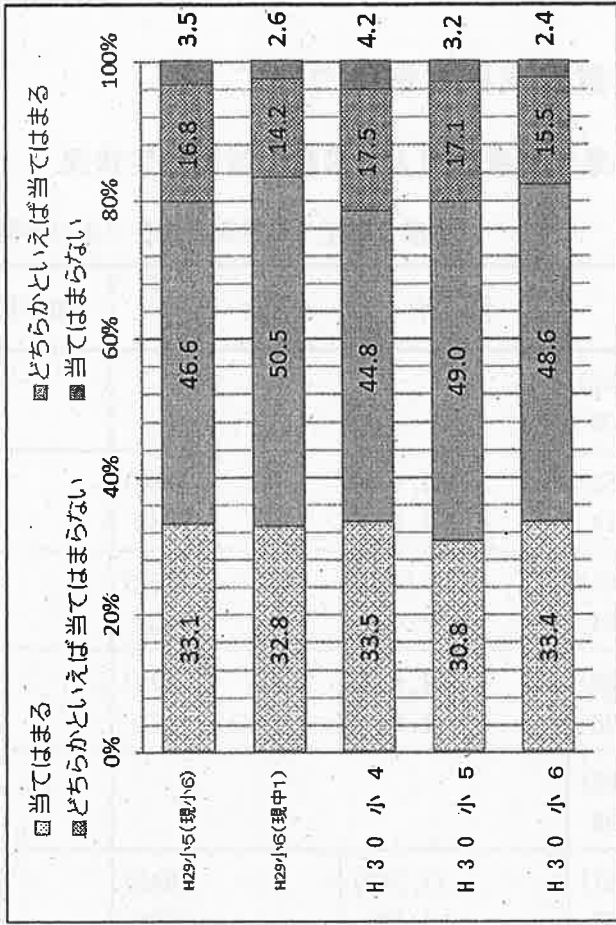
【質問③】授業で使うノートやプリントに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思いますか。



【質問④】授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いませんか。



【質問⑤】授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいると思いませんか。



## 高校生等の就職支援対策について

## 1 平成31年3月新規高等学校等卒業予定者の求人・求職・就職内定状況

平成30年10月末日現在（山口労働局調べ）

項目		性別	合計	男子	女子	前年同期比
A	求人数(人)	県内安定 所受理数	(5,662) 6,508			14.9%
		県内就職 希望者数	(2,452) 2,574	(1,470) 1,532	(982) 1,042	5.0%
B	求職者数 (人)	県外就職 希望者数	(601) 554	(449) 425	(152) 129	-7.8%
		合計	(3,053) 3,128	(1,919) 1,957	(1,134) 1,171	2.5%
		C=A/B 求人倍率(倍)	(1.85) 2.08			0.23ポイント
D	就職 内定者数 (人)	県内 就職者数	(2,187) 2,297	(1,342) 1,391	(845) 906	5.0%
		県外 就職者数	(582) 524	(443) 413	(139) 111	-10.0%
		合計	(2,769) 2,821	(1,785) 1,804	(984) 1,017	1.9%
E=D/B	就職 内定率 (%)	県内就職	(89.2) 89.2	(91.3) 90.8	(86.0) 86.9	0.0ポイント
		県外就職	(96.8) 94.6	(98.7) 97.2	(91.4) 86.0	-2.2ポイント
		合計	(90.7) 90.2	(93.0) 92.2	(86.8) 86.8	-0.5ポイント
F	県内・県外 就職内定 比率 (%)	県内就職	(79.0) 81.4	(75.2) 77.1	(85.9) 89.1	2.4ポイント
		県外就職	(21.0) 18.6	(24.8) 22.9	(14.1) 10.9	-2.4ポイント

(注) 1. ( ) 内は昨年同期の数値である。  
2. 求人数【A欄】は、山口県内の公共職業安定所で受理した求人数である。  
3. 求職者数【B欄】は、学校又は公共職業安定所の紹介を希望する者の数である。  
4. 求人倍率【C欄】は、Aの求人数/Bの求職者数(合計)である。  
5. 県内・県外就職比率【F欄】は、就職内定者数【D欄】の合計に対する県内・県外就職内定者数の比率である。

## 2 平成31年3月新規高等学校等卒業予定者への支援

### (1) 本年度の新たな取組等

- 県内就職促進統括マネージャーの県央部への配置
  - ・ 県内企業の情報等の集約、連携機関との窓口の一元化、県内全域での広域マッチング（就職サポーター等と連携）
- 県内企業見学セミナーの実施
  - ・ 県内企業の現場見学を行い、企業で働く人からのセミナーを実施
  - ・ 1年生及び保護者を対象
- 高校生県内就職促進プロジェクトチームにおける継続協議・検討
  - ・ メンバーとして、教育庁・商工労働部・総務部に総合企画部・産業戦略部を追加して、県内就職をより総合的かつ一体的に促進

### (2) 今後の取組

- 就職未内定者への支援（県内企業情報の提供）
- 就職サポーター等による2年生を対象とした早期からの個別面談の実施
- 企業PR動画（山口きらりカンパニー：山口しごとセンター）の紹介

## 3 県立特別支援学校における支援

### (1) 平成31年3月新規卒業予定者の求職・就職内定状況

平成30年10月末日現在（特別支援教育推進室調べ）

	希望者数	内定者数	内定率	対前年同期比
就職	(73) 88	(15) 20	(20.5%) 22.7%	2.2ポイント
福祉施設	(161) 163	(34) 33	(21.1%) 20.2%	▲0.9ポイント
在宅	(6) 3			

（ ）内は昨年度10月末

### (2) 平成31年3月高等部卒業予定者への支援

#### ア 新たな現場実習先の開拓と現場実習の充実

- 総合支援学校就職支援コーディネーターによる実習先の開拓及び障害者雇用の理解促進
- ハローワーク等との連携強化による職域の拡大及び実習先の開拓
- 本人の希望や適性と企業のニーズとのマッチングの促進及び主体的な進路選択に向けた早期からの現場実習の充実

#### イ 関係機関との連携強化による就職支援

- ハローワークや障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、労働政策課、特別支援教育センター等との連携強化
- 関係機関との個別の進路相談やケース会議を通じた現在の状況把握、就職支援情報や福祉サービス事業所の利用等に関する情報提供を行うなどの支援継続

# 報告事項 4

## 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

学校安全・体育課

### 1 調査名

平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

### 2 調査の概要

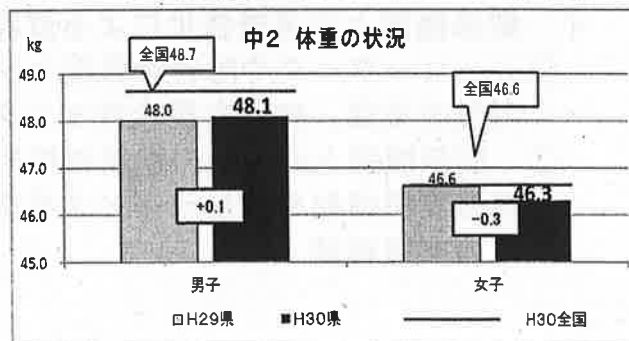
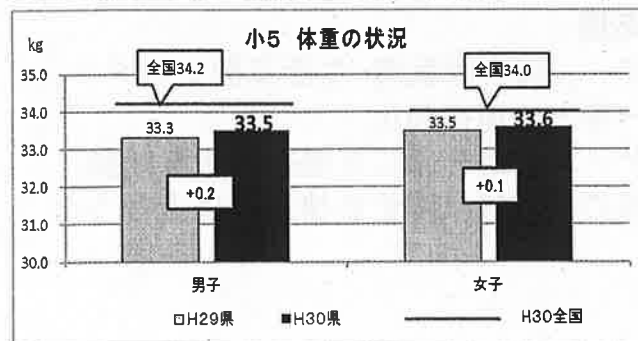
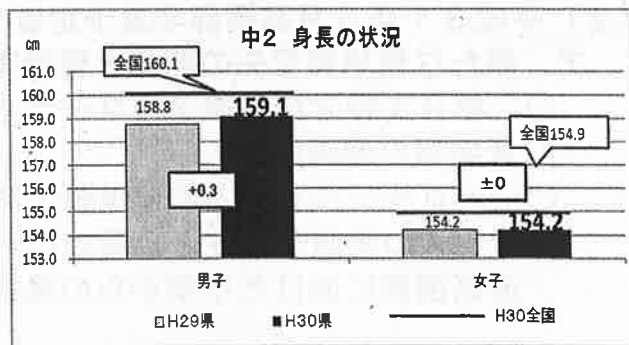
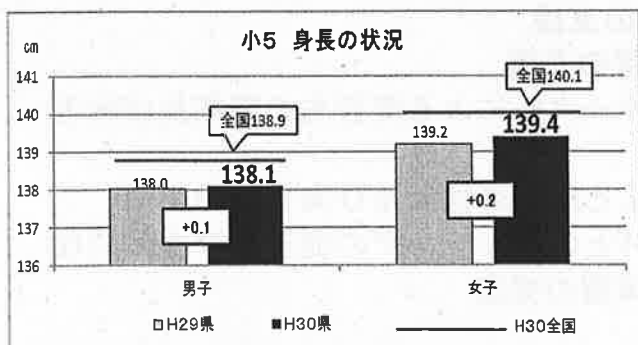
- (1) 調査主体 スポーツ庁
- (2) 調査期間 平成30年4月～7月末（学校ごとに期日を設定）
- (3) 調査内容

調査対象	・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年 ・中学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年
調査方式	・対象学年の全児童・生徒を対象に全国悉皆調査（H29年度も悉皆調査）
調査事項	・実技 小学校8種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ） 中学校8種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子1500m、女子1000m）、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ） ※中学校は持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施 ・質問紙調査 児童・生徒質問紙（運動習慣、生活習慣） 学校質問紙（子供の体力向上に係る学校の取組等）

### 3 調査学校数及び児童・生徒数

校種	区分	調査学校数	調査児童・生徒数（人）		
			男子	女子	合計
小学校	山口県	288	5,691	5,514	11,205
	全国	19,723	542,335	519,291	1,061,626
中学校	山口県	153	5,403	5,104	10,507
	全国	10,322	507,129	487,029	994,158

### 4 児童・生徒の体格の状況



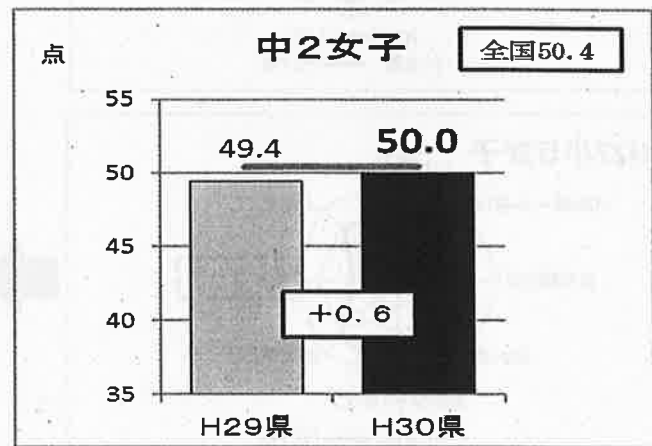
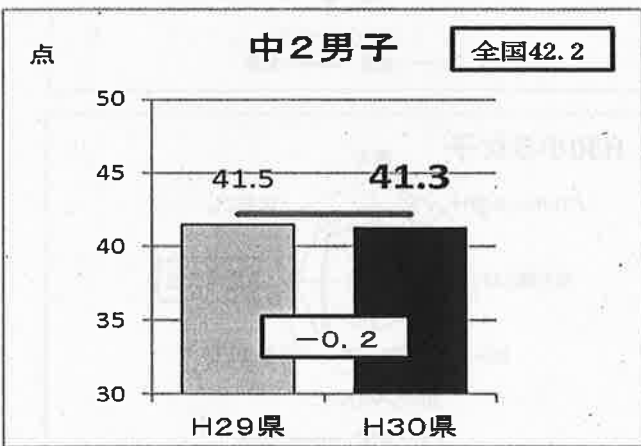
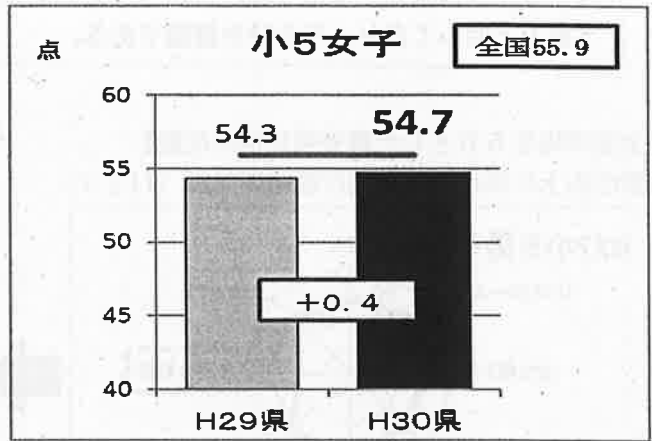
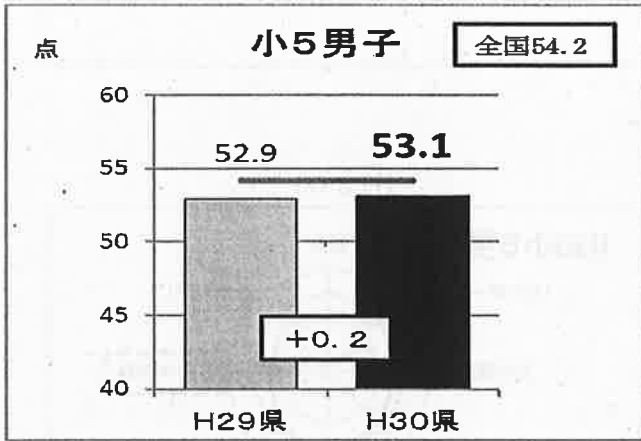


5 児童・生徒の体力の状況

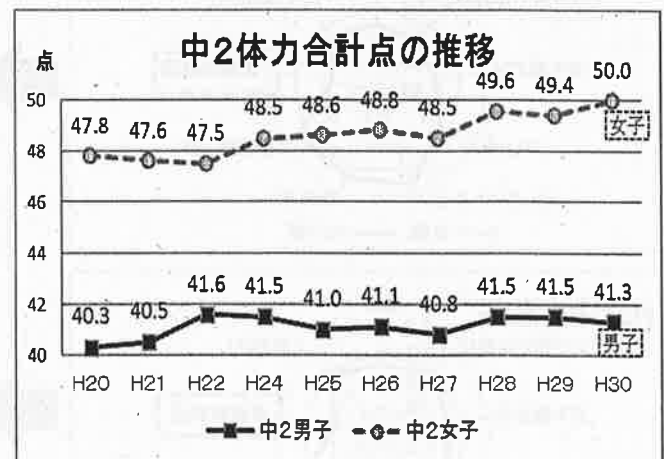
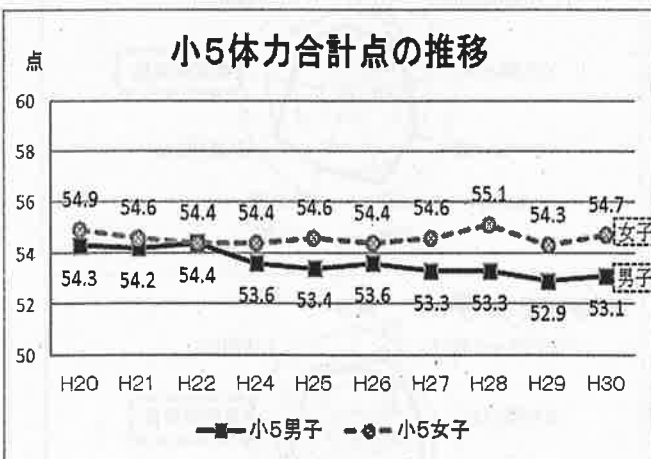
(1) 体力合計点

- 体力の総合的な指標である「体力合計点」は、全国平均と比較して、全ての調査対象が下回った。
- 本県の昨年度の記録と比較すると、小5男子、女子、中2女子は上回り、中2男子は下回った。
- 中2女子は過去最高値を記録した。

【昨年度及び全国平均との比較】



【体力合計点の推移】



※ H20・21・25・26・27・28・29・30年度は「悉皆調査」  
H22・24年度は「抽出調査」、H23年度は震災のため調査中止

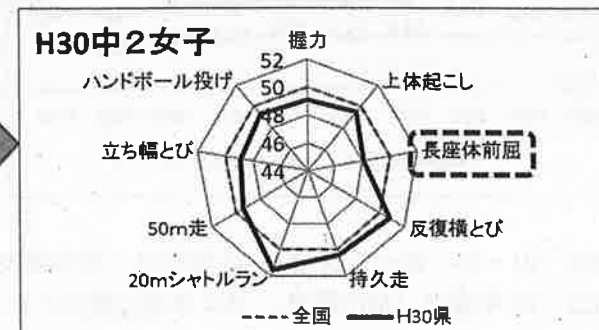
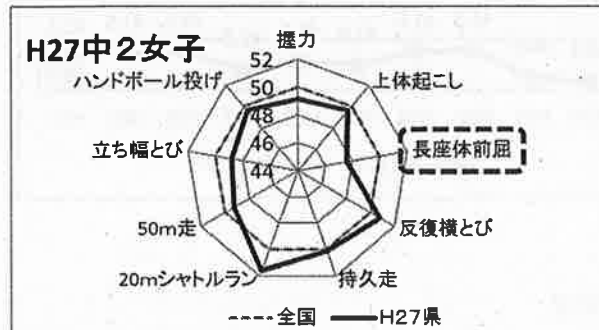
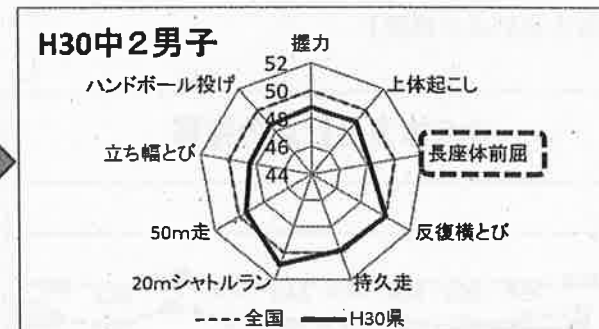
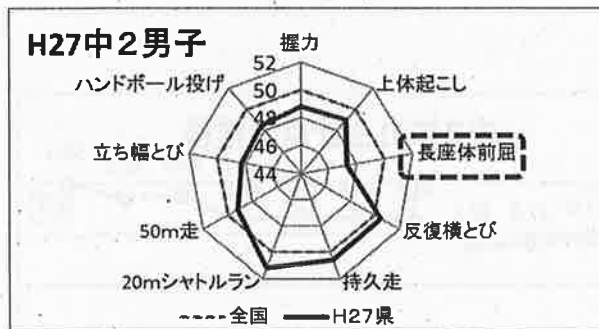
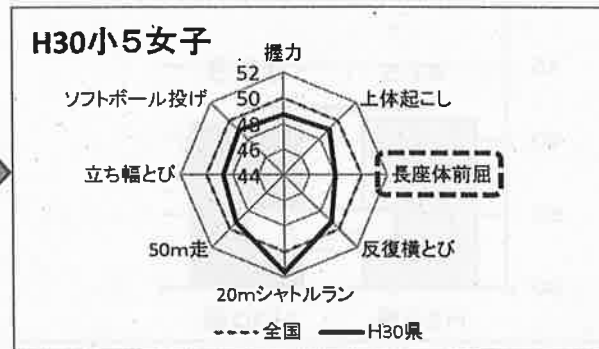
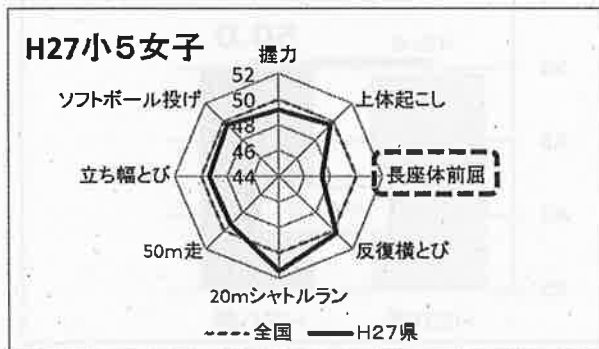
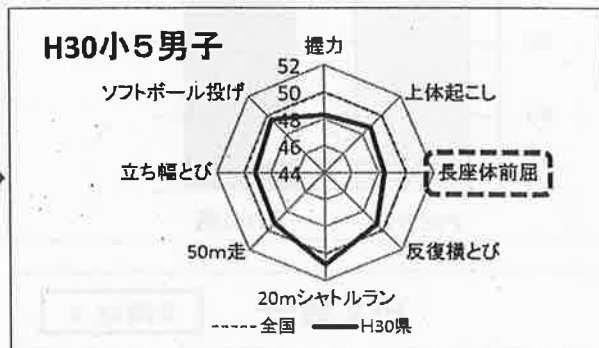
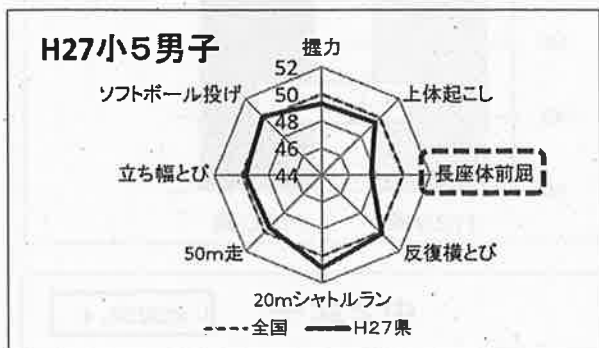
(2) 体力調査各種目の状況

- 全国平均と比較して、20mシャトルラン(持久力)は、全ての調査対象で上回った。これまで同様、持久力に優れている。
- これまでの課題であった長座体前屈(柔軟性)については、本県の昨年度の記録と比較して、小5男子、小5女子、中2女子が上回った。小5男子、中2女子は過去最高値を記録し、小5女子、中2男子は過去2番目の記録となった。
- 3年間の重点的な取り組みにより一定の成果が見られたが、全国平均と比較して全ての調査対象で下回っており、引き続き課題である。

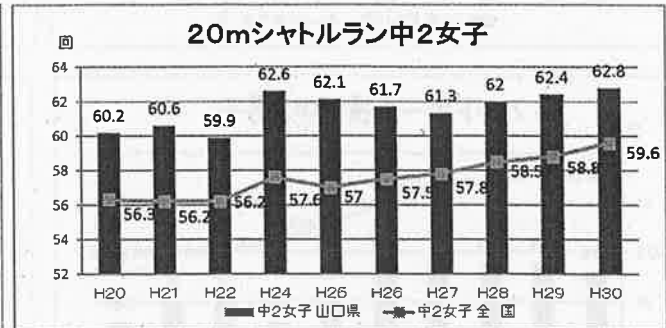
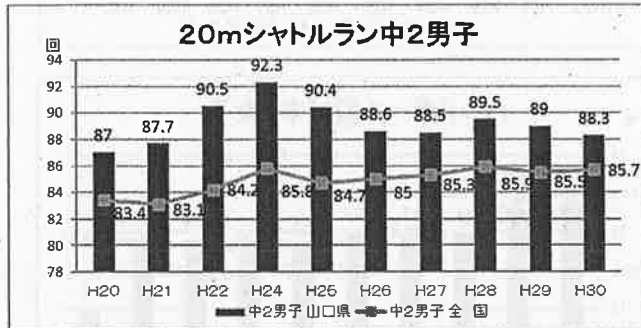
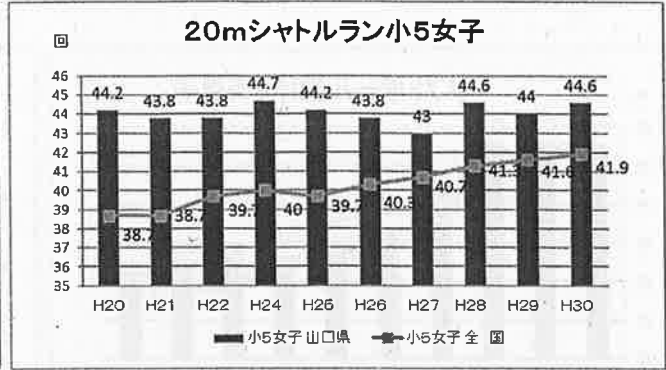
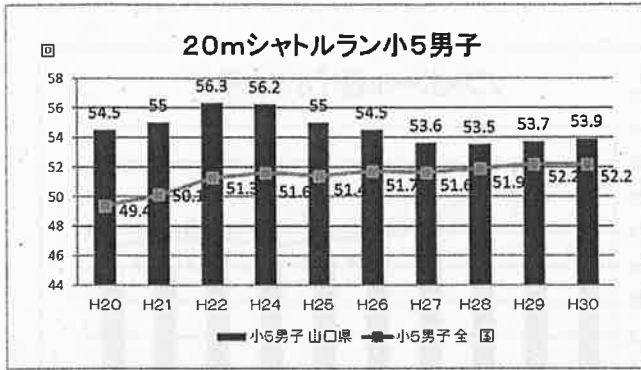
【全国平均を50とした調査項目別の比較】

柔軟性向上に向けた重点的な取組開始前 (H27)

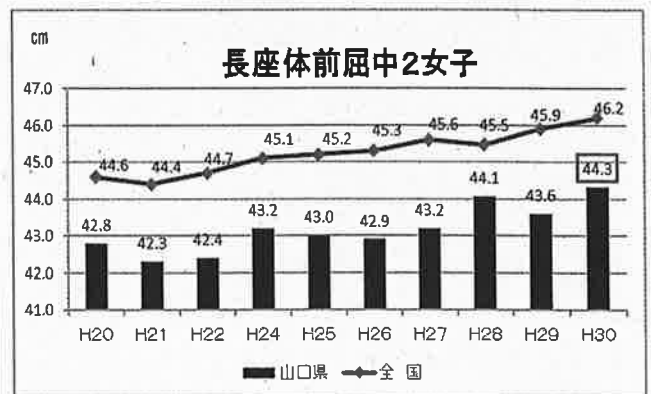
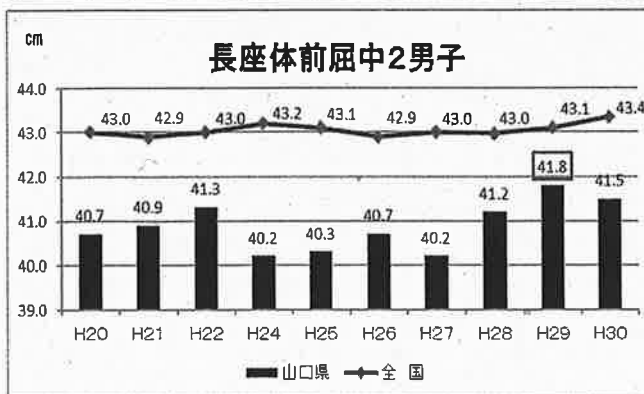
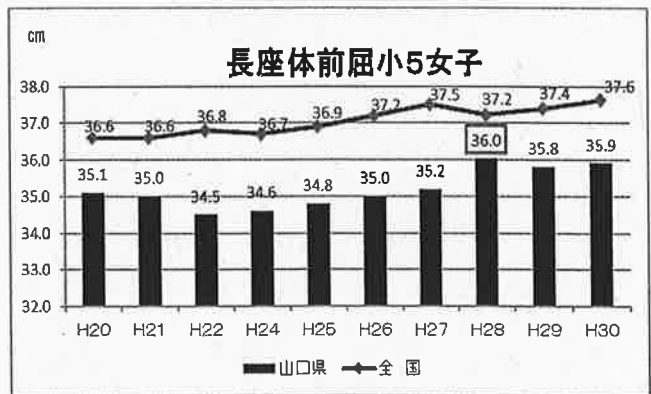
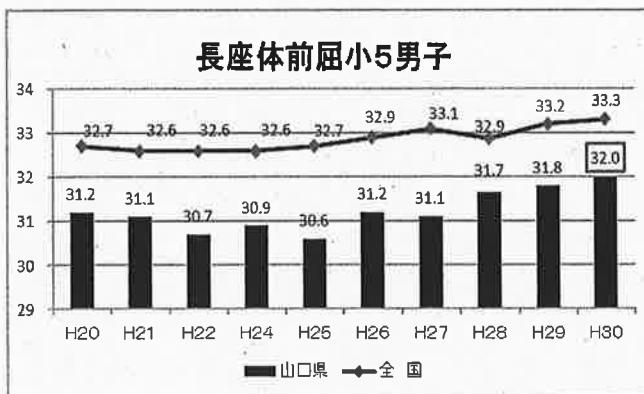
(H30)



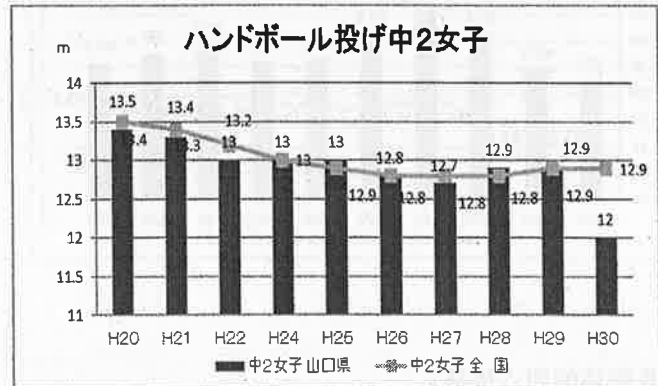
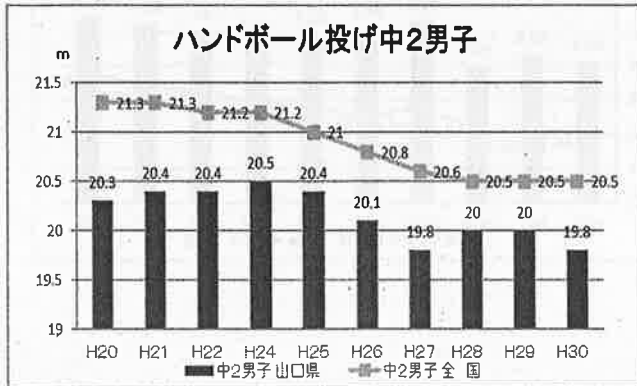
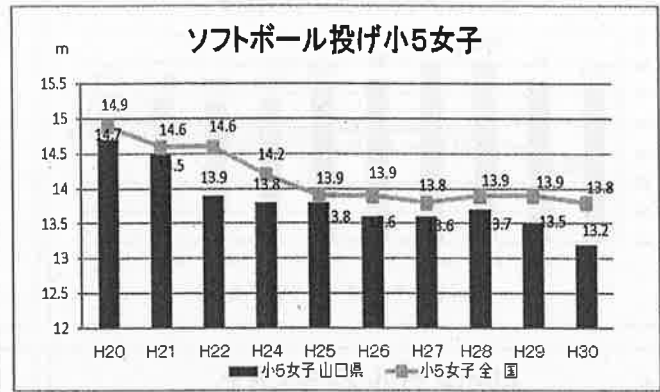
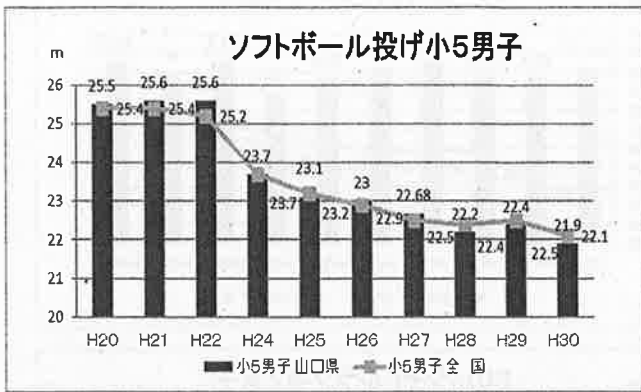
【20mシャトルランの推移】



【長座体前屈の推移】



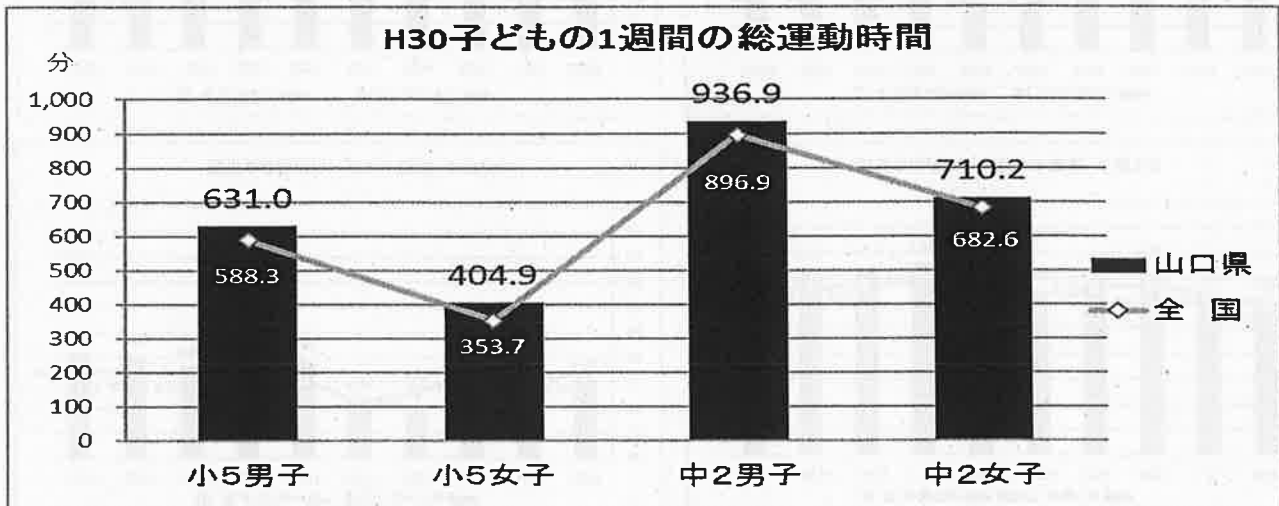
【ボール投げの推移】



6 運動習慣等調査の状況

- 全国平均と比較すると、1週間の総運動時間はすべての調査対象で上回っている。
- 全国平均と比較すると、総運動時間が60分未満の生徒の割合は、男女ともに低かった。小学校も同様の傾向である。
- 全国平均と比較すると、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合は、小5男子、中2男子、女子で上回り、小5女子は下回った。

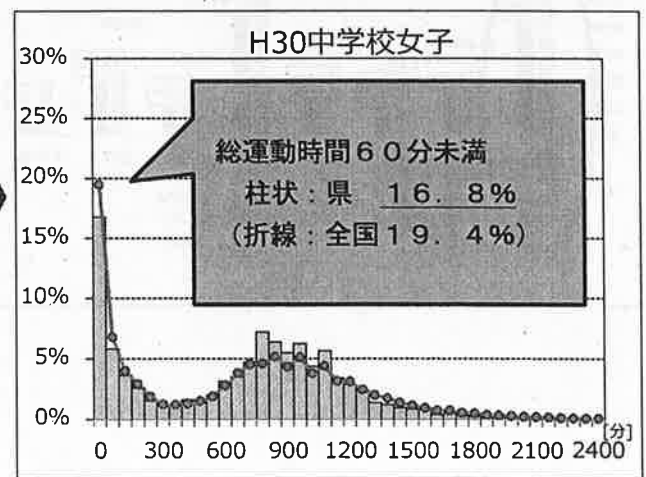
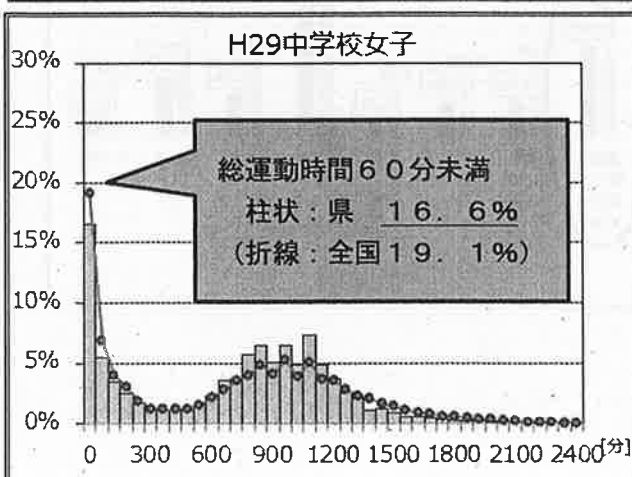
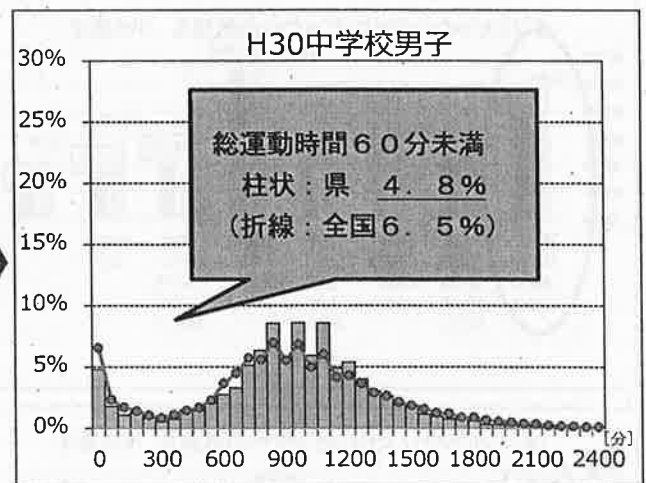
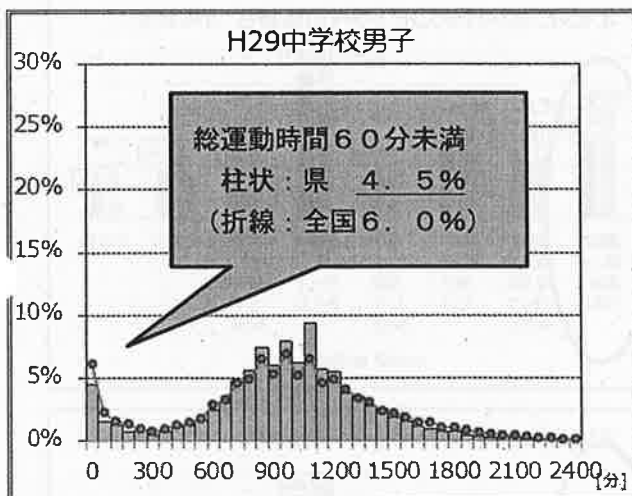
【運動やスポーツの実施時間】（体育の時間以外）



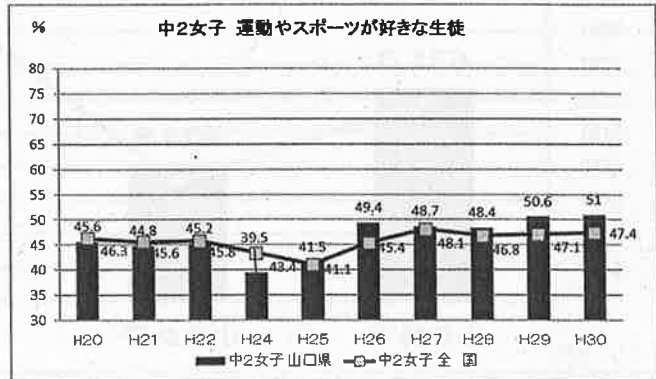
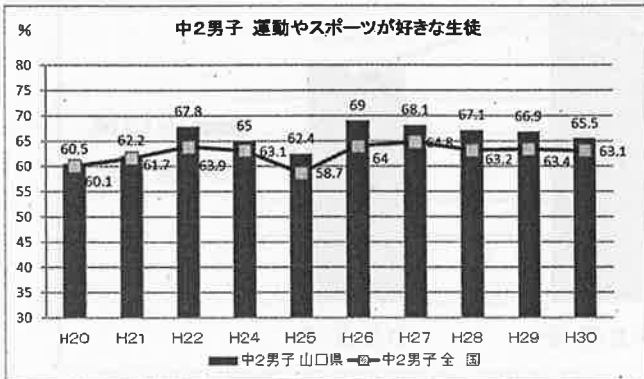
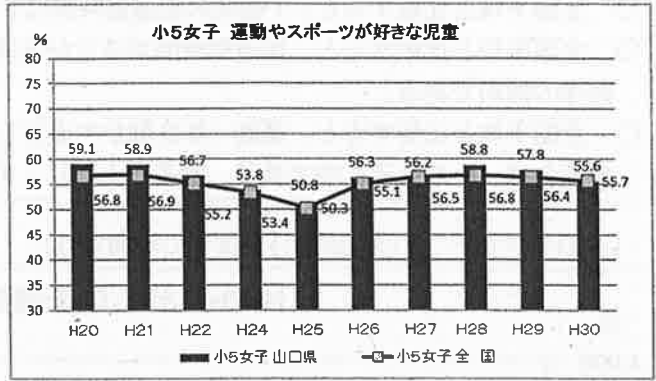
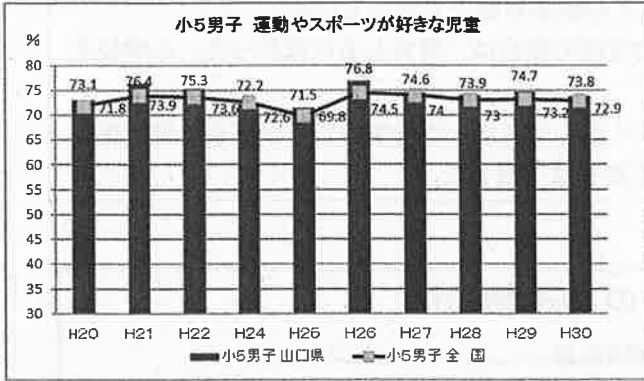
【1週間の総運動時間別の児童・生徒の割合】（体育の時間以外）

H29年度

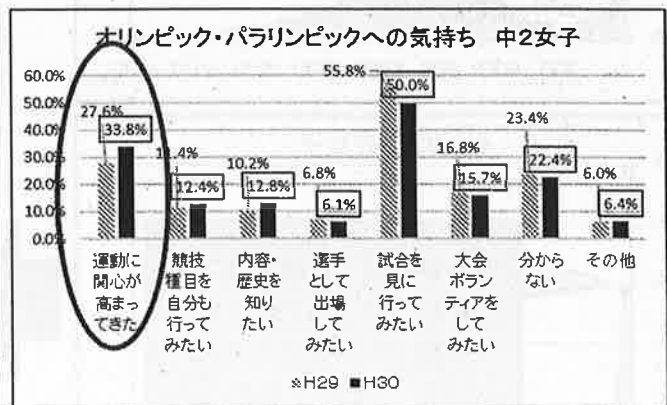
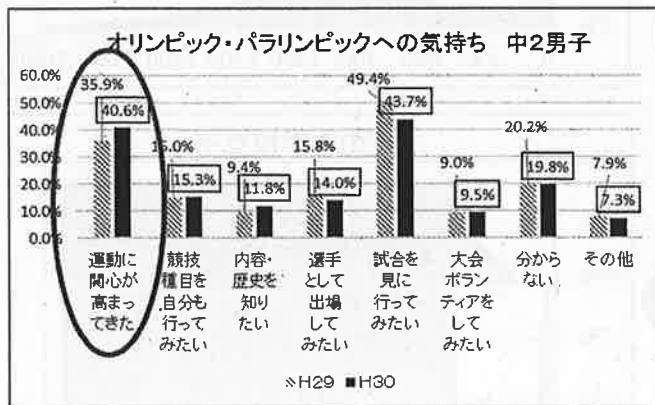
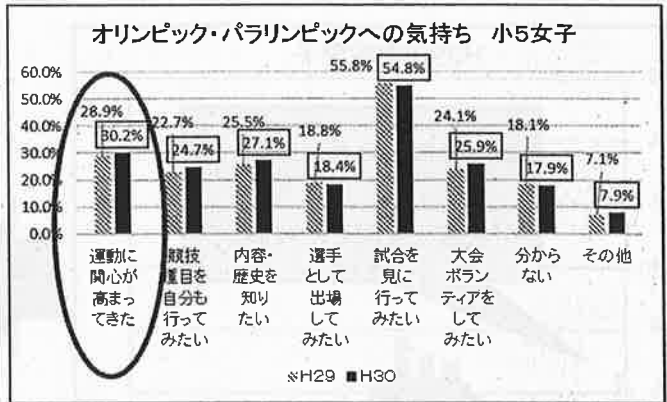
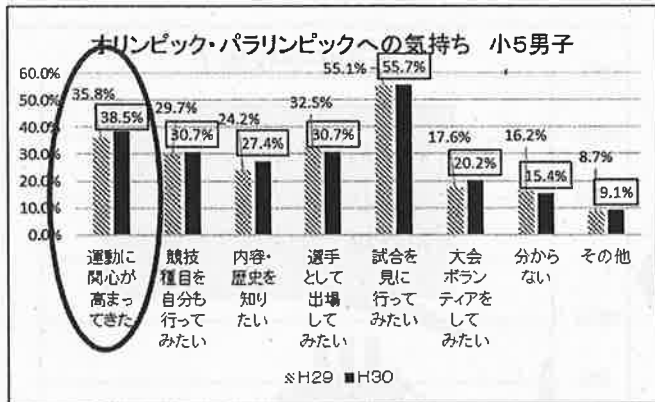
H30年度



【運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合】



【オリンピック・パラリンピックへの気持ち割合（複数回答）】



## 7 今年度の成果と課題及び今後の取組の方向性

### (成果)

- 長座体前屈(柔軟性)
  - ・平成28年度からの3年間の取り組みにより一定の成果
  - ・小5男子→H30最高値 ・小5女子→H28最高値
  - ・中2男子→H29最高値 ・中2女子→H30最高値
- 20mシャトルラン(持久力)
  - ・全国平均と比較して、全ての調査対象で上回る。
- 運動習慣
  - ・1週間の総運動時間→全国平均と比較して、全ての調査対象で上回る。
  - ・総運動時間60分未満の児童生徒→全国平均と比較して、全ての調査対象で下回る。
- オリンピック・パラリンピックへの気持ちについて
  - ・「運動に関心が高まってきた」と回答する割合→全ての調査対象で昨年を上回る。

### (課題)

- 「体力合計点」については、小5男女、中2男女、全ての調査対象で、全国平均には届いていない。
- 柔軟性向上に一定の成果は見られたものの、柔軟性や投能力等一部の種目が引き続き全国平均を下回っている。
- 全国と同様に、運動習慣の二極化が見られる。

### (今後の取組の方向性)

- 体力向上に向けた組織的な取組の推進
  - ・体力アップチャレンジ協議会※による、体力や運動習慣の検証と改善
  - ・「体力向上プログラム」の改善と「1校1取組」などの特色ある取組の充実
- 指導方法の工夫改善による学校体育の充実
  - ・実技講習会等の各種研修会の開催等
  - ・体育科・保健体育科授業の充実
  - ・体育授業マイスター等の派遣による指導力向上
- 家庭や地域と一体となった取組の推進
  - ・ウェブサイトを活用した参加型によるバランスのとれた体力向上の取組の拡充
  - ・地域の人材を活用した休み時間の運動や体育活動の充実
  - ・学校体育通信「やまぐちっ子の元気維新」の家庭配布による広報活動
- オリンピック・パラリンピック教育の推進
  - ・オリンピック・パラリンピアン等を活用したスポーツ教室等の開催

#### ※体力アップチャレンジ協議会

山口県の子どもの体力課題の解決に向けて、専門家等との連携により、科学的根拠に基づく、子どもの体力向上の施策、取組の見直し、改善を図ることを目的に設置。主なメンバーは、大学教授、公益財団法人山口県体育協会(やまぐちスポーツ医・科学サポートセンター)、独立行政法人日本スポーツ振興センター及び学校関係者等で構成している。

児童・生徒の体格の状況

■ は全国平均値以上 □ はH29を上回る

校種	性別	区分	身長(cm)	体重(kg)	身長・体重のバランスがとれている児童生徒の割合※1
小学5年生	男	H29山口県	138.0	33.3	89.0%
		H30山口県	138.1	33.5	87.8%
		H30全国	138.9	34.2	86.8%
	女	H29山口県	139.2	33.5	91.1%
		H30山口県	139.4	33.6	90.6%
		H30全国	140.1	34.0	89.5%
中学2年生	男	H29山口県	158.8	48.0	91.3%
		H30山口県	159.1	48.1	90.6%
		H30全国	160.1	48.7	89.4%
	女	H29山口県	154.2	46.6	89.8%
		H30山口県	154.2	46.3	90.4%
		H30全国	154.9	46.6	89.7%

※1 バランスのとれた児童・生徒の割合：全体から、肥満傾向及び痩身傾向の児童・生徒の割合を差し引いた割合  
 性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が20%以上が肥満傾向児、-20%以下を痩身傾向児とする。  
 (「児童・生徒の健康診断マニュアル(改訂版)」(財)日本学校保健会  
 算出式：肥満度(%)=[実測体重(kg)-身長別標準体重(kg)]÷身長別標準体重(kg)×100保健会による]

※表のグレーの部分は全国平均値以上、太囲みは平成29年度より向上を示しており、以下の表も全て同じです。



児童・生徒の体力調査各項目の状況

は全国平均値以上      はH29を上回る

校種	性別	区分	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	持久走	50m走	立ち幅跳び	ハンドボール投げ	体力合計点 (点)
			(kg)	(回)	(cm)	(回)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	
小学5年生	男	H29山口県	15.9	19.2	31.8	41.1	53.7		9.48	148.6	22.4	52.9
		H30山口県	<b>15.9</b>	<b>19.2</b>	<b>32.0</b>	<b>41.6</b>	<b>53.9</b>		<b>9.44</b>	<b>150.5</b>	<b>21.9</b>	<b>53.1</b>
		H30全国	16.5	19.9	33.3	42.1	52.2		9.37	152.3	22.1	54.2
	女	H29山口県	15.6	18.3	35.8	39.4	44.0		9.74	142.0	13.5	54.3
		H30山口県	<b>15.6</b>	<b>18.4</b>	<b>35.9</b>	<b>39.7</b>	<b>44.6</b>		<b>9.66</b>	<b>143.2</b>	<b>13.2</b>	<b>54.7</b>
		H30全国	16.1	19.0	37.6	40.3	41.9		9.60	146.0	13.8	55.9
中学2年生	男	H29山口県	28.2	26.7	41.8	52.2	89.0	391.3	8.02	190.9	20.0	41.5
		H30山口県	<b>28.0</b>	<b>26.7</b>	<b>41.5</b>	<b>52.3</b>	<b>88.3</b>	<b>393.7</b>	<b>8.04</b>	<b>191.5</b>	<b>19.8</b>	<b>41.3</b>
		H30全国	28.8	27.3	43.4	52.2	85.7	393.7	7.99	195.5	20.5	42.2
	女	H29山口県	23.4	23.4	43.6	47.1	62.4	285.8	8.83	166.3	12.9	49.4
		H30山口県	<b>23.5</b>	<b>23.6</b>	<b>44.3</b>	<b>47.9</b>	<b>62.8</b>	<b>285.0</b>	<b>8.83</b>	<b>167.5</b>	<b>12.0</b>	<b>50.0</b>
		H30全国	23.8	23.8	46.2	47.3	59.6	287.5	8.78	170.1	12.9	50.4
体力要素	筋力	○	○					○	○	○		
	柔軟性			○								
	敏捷性				○			○				
	持久力		○			○	○					
	調整力				○				○	○		

※持久走は、中学生のみの項目 男子1500m 女子1000m  
 ※中学生は「20mシャトルラン」か「持久走」のどちらかを選択して実施  
 ※「ソフトボール投げ」は小学生、「ハンドボール投げ」は中学生

## 世界遺産暫定一覧表記載資産候補「錦帯橋」の提案書について

### 1 趣旨

「錦帯橋」の世界文化遺産登録に向け、暫定一覧表への記載を文化庁に提案するために、世界文化遺産にふさわしい資産として提案書にとりまとめた。

### 2 作成者

山口県、岩国市

### 3 これまでの経緯

H18.19 文化庁の「世界文化遺産暫定一覧表」記載資産の公募に、県・市が共同で「錦帯橋と岩国の町割り」を応募

H20.9 結果は不記載だが、評価はカテゴリー I a

H21.6 市が「錦帯橋世界文化遺産専門委員会」を設置

H28.11 県・市が関係団体等と「錦帯橋世界文化遺産登録推進協議会」を設置

### 4 提案書の内容

#### (1) 構成

世界文化遺産候補としてユネスコに提出する「登録推薦書」に準じた構成。

#### (2) 内容

世界文化遺産登録に必要な、①登録基準を満たす顕著な普遍的価値、②真実性の証明や完全性の充足、③資産の保護措置を記載。

#### ①登録基準を満たす顕著な普遍的価値

登録基準 i) 人間の創造的才能を表す傑作である。

⇒錦帯橋が持つ景観美、構造美により証明

登録基準 iv) 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、或いは景観を代表する顕著な見本である。

⇒世界唯一の構造（錦帯橋式アーチ構造）により証明

#### ②真実性の証明及び完全性の充足

資産「錦帯橋」の形状、機能等は創建当時から変わっていないという真実性を、江戸時代から残る図面等により証明。

資産「錦帯橋」は、顕著な普遍的価値を説明するのに必要な全ての構成要素（アーチ橋、桁橋、橋脚、橋台、護床工）を含んでいるという完全性を充足。

#### ③資産の保護措置

##### ○資産及び緩衝地帯の範囲

資産である錦帯橋（橋台、護床工を含む）の効果的な保護のために必要な周辺部を緩衝地帯（バッファゾーン）に設定。

##### ○資産の適切な保全を図る法令

資産：文化財保護法（名勝指定）

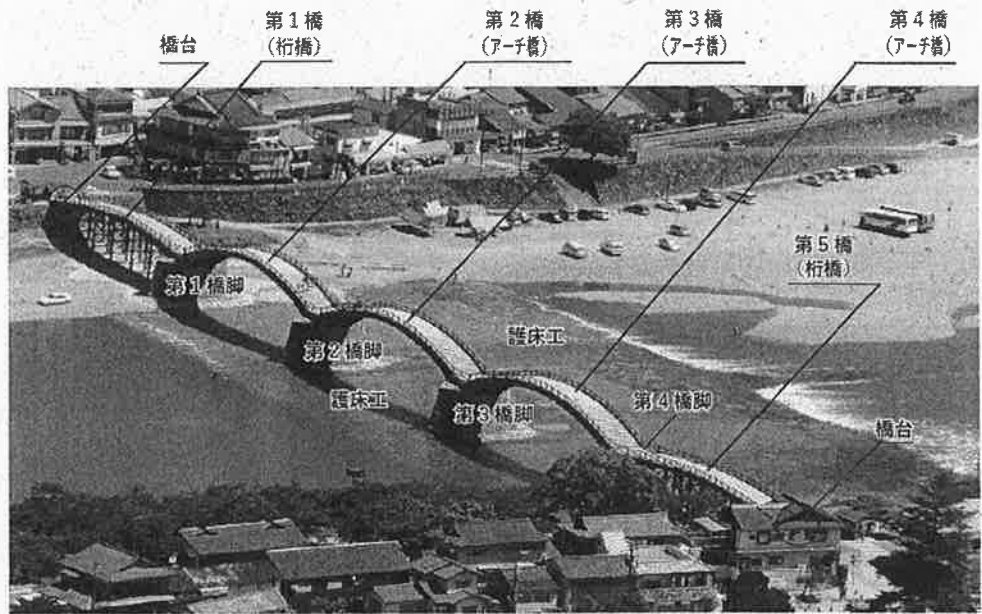
緩衝地帯：都市計画法、景観法、屋外広告物法、森林法、河川法等

##### ○保存管理に関する計画

### 5 提案書の提出

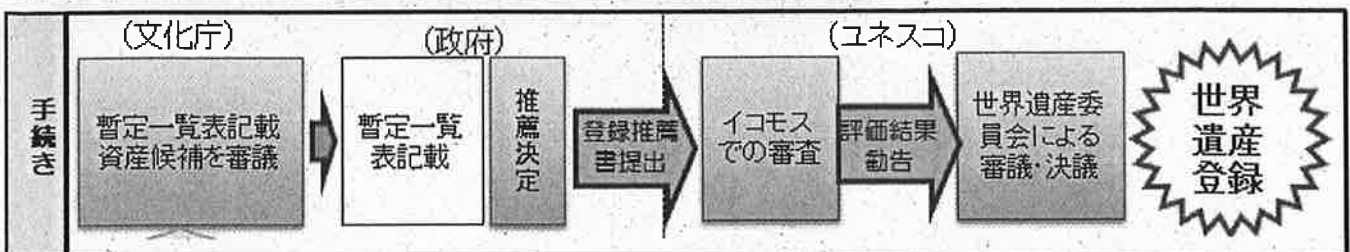
12月19日（水）に柴山文部科学大臣へ提出。

資産の構成要素



資産及び緩衝地帯の範囲

世界文化遺産登録までの流れ





SECRET

SECRET



SECRET



## 協議事項

番号	件名	主管課
1	山口県特別支援教育推進計画（最終案）について	特別支援教育推進室

2014年	
2014年1-12月	2014年1-12月

「山口県特別支援教育推進計画」について

教育庁特別支援教育推進室

1 パブリック・コメントの実施結果

- (1) 募集期間 : 平成30年8月31日 ~ 平成30年10月1日
- (2) 意見の件数 : 43件
- (3) 提出された意見及びこれに対する考え方等 : 別紙による。

2 第2回山口県特別支援教育推進協議会の開催

- (1) 開催日 : 平成30年10月19日
- (2) 構成委員 : 有識者、医療、福祉、労働等の関係者及び保護者、教育関係者
- (3) 協議内容 : 「山口県特別支援教育推進計画（最終案）について」等
- (4) 主な意見

- ・教職員の専門性の担保や指導力の一層の向上
- ・総合支援学校と医療機関との連携強化
- ・すべての児童生徒に分かりやすい授業づくりの推進
- ・就労先等との切れ目ない支援体制の充実
- ・コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校支援や地域貢献の推進

3 「推進計画」の作成の趣旨・方針

本計画は、「山口県教育振興基本計画」を上位計画として、2018（平成30）年度から5年間で重点的に取り組む項目を具体的に示すとともに、「インクルーシブ教育システムの構築」「共生社会の実現」等、教育や社会を取り巻く状況の変化や新たな課題に適切に対応するため、「山口県教育振興基本計画」に示す今後の方向性をより明確化し、主として教育内容の充実・発展に重点を置いた計画として作成する。

4 「推進計画」の取組項目 ※項目は「山口県教育振興基本計画」に示す項目と同じ。

- 1 総合支援学校における教育の充実
- 2 高等学校等における特別支援教育の充実
- 3 小・中学校における特別支援教育の充実
- 4 早期からの切れ目ない支援体制の充実
- 5 特別支援教育を推進する体制の充実

5 素案の加筆・修正

- **p18** 1 総合支援学校の教育の充実  
(1) 一人ひとりの教育的ニーズに応える教育内容等の充実

【追加】

- 幼児児童生徒が互いの障害を相互に認め合い、共に育ち合う教育活動の実践を重ねるとともに、視覚障害、聴覚障害等、各障害の専門性の継承等の観点から、総合支援学校の教育の充実について、引き続き、全県的な視点に立って検討を進めます。

- **p32** 5 特別支援教育を推進する体制の充実  
(6) 総合支援学校コミュニティ・スクールの取組の充実

【追加】

- ・ 障害のある幼児児童生徒のための教材・教具の作成等について、地域等の大学や高等専門学校、企業等と連携した取組を検討します。

6 作成過程と今後の予定

12月10日	■ 県議会文教警察委員会での審議
12月20日	■ 教育委員会会議での審議
12月下旬	■ 「推進計画」公表

## 「山口県特別支援教育推進計画(素案)」に対するパブリック・コメントの概要

### 1 パブリック・コメントの実施状況

#### (1) 募集期間

平成30年8月31日(金)から平成30年10月1日(月)

#### (2) 公表方法

県のホームページに掲載するとともに、県庁情報公開センター、各地方県民相談所、山口地方県民相談室防府駐在に備え付け

#### (3) 意見の提出方法

郵送、ファクシミリ、電子メールにより意見を募集

### 2 意見の件数

8人 43件

### 3 提出された意見及びこれに対する考え方

※ 意見が同様の主旨の場合は、まとめています。

意見の要旨	意見に対する県の考え方
<b>1 総合支援学校における教育の充実(14件)</b>	
○ 5障害対応の「総合支援学校」の在り方を検証し、また人員配置や施設等を充実させる必要がある。	○ 総合支援学校は、障害の状態や程度の異なる児童生徒が、地域の学校で互いのよさを認めながら学ぶことを目指しております。(計画に追加しました。) また、人員配置や施設等については関係課と連携を図りながら計画的に進めているところです。
○ 特別支援学校教諭免許取得率の向上と併せて、本務教員の任用比率を高めることが必要である。	○ 免許法認定講習を継続的に開催としています。また、教員配置等については、関係課と連携を図りながら進めています。
○ 校外学習への看護師の複数同行など、医療的ケアに対応できる看護師の増員が必要である。	○ 校外学習に同行する看護師の役割の明確化を含め、学校と保護者、医療、福祉と連携して安全・安心な体制づくりに努めることとしています。
○ 児童生徒数の少ない障害種(視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱教育)の教員の専門性の向上・継承が必要である。	○ 教員の授業力、専門性の向上・継承については、関係機関等と連携し、効果的な研修等を検討することとしております。(計画に追加しました。)
○ 「きらめき検定」に必要な備品や施設の整備が必要である。	○ 担当校や担当者会議等の意見を踏まえながら、具体的な整備等を計画的に進めているところです。
○ キャリア教育の視点に、「社会貢献や社会参加」を加える必要がある。	○ 社会への接続の視点を踏まえ、活動の幅を広げるキャリア教育を早期から取り組むこととしています。
○ 就労を押し付けるのではなく、生徒の主体性を尊重したキャリア教育の推進が必要である。	○ 引き続き、障害のある全ての児童生徒のニーズに応じたキャリア教育を推進していきます。
○ 肢体不自由の児童生徒のためのバリアフリー型トイレの増設が必要である。	○ 各学校の状況等を踏まえ、関係課と連携を図りながら計画的に整備を進めています。
○ 通学バスについて、片道1時間以上のルート解消のため増便やバリアフリーバスや添乗員の増員等が必要がある。	○ 学校と連携を図り、保護者の協力を得ながら通学バスの計画的な整備を進めることとしています。



意見の要旨	意見に対する県の考え方
<b>2 高等学校等における特別支援教育の充実（5件）</b>	
○ 高等学校等には、教育における様々な障害等をワンストップで受け止めて支援する体制が必要である。	○ 中学校からの確実な引継ぎ、特別支援教育センターや医療・福祉・労働等の関係機関との一層の連携を図りながら、全校による支援体制の構築を目指します。
○ 高等学校の「通級による指導」の対応のため、教員定数や予算措置等を国に求める必要がある。	○ 国の動向等に注視しながら高等学校等における通級による指導の体制整備に努めているところです。
<b>3 小・中学校における特別支援教育の充実（12件）</b>	
○ 小・中学校における特別支援教育の充実のためには、研修会、マニュアル作成、支援体制の強化など、県教委からの助言・支援が必要である。	○ 県教育委員会作成のガイドブックの活用を通して専門性の向上を図るとともに、市町教育委員会と連携し、地域の特色や課題に応じた障害のある児童生徒への指導や支援体制の整備・充実に努めることとしています。
○ 障害のある児童生徒への指導・支援の取組と学力向上の取組を同時並行で行うことが、全職員の理解促進に繋がるはずである。	○ ふれあい教育センターや学力向上推進教員等と連携して好事例の普及を図るとともに、理解促進に努めることとしています。
○ 県が、小・中学校の特別支援学級や通級指導教室の課題を整理し、教員や支援員の配置等の整備に努める必要がある。	○ 引き続き、市町教育委員会による計画的な設置と、県教育委員会による市町教育委員会への適切な助言等に努めることとしています。
<b>4 早期からの切れ目ない支援体制の充実（4件）</b>	
○ 市町の保健、福祉等の先導による早期（就学前）の支援体制と学校との連携の充実が必要である。	○ 県や各市町の医療、保健、福祉等の主管課と協働した支援体制の在り方について検討を進めることとしています。
○ 「個別の教育支援計画」等による情報の引継ぎ、入試や採用試験等で生かされるような制度設計を求める。	○ 引き続き、関係機関等と連携し、障害者差別解消法の法律を踏まえた対応を求めていきます。
○ 早期離職や再就職等のアフターケアのために、労働関係機関から専任のスタッフを委嘱するなど対策等が必要である。	○ 関係部局や労働関係機関、進路先と連携した取組を進めることとしています。
<b>5 特別支援教育を推進する体制の充実（8件）</b>	
○ 全校体制で特別支援教育を推進していくために、研修を通して管理職の正しい理解とリーダーシップの育成が必要である。	○ 新任管理職研修会や各種会議において、適宜、特別支援教育の現状や課題等の共有を一層進めるなど、管理職のリーダーシップの育成を図ることとしています。
○ 学校現場の多忙化や長時間過密労働の解消の観点からも、計画書の作成は最低限必要な記述に絞るなどが必要である。	○ 作成・活用の現状と課題、様式や引継ぎの在り方等を整理し、作成指導資料の改訂を図ることとしています。
○ 総合支援学校のコミュニティ・スクールの導入が多忙化や負担増につながらないように努める必要がある。	○ 総合支援学校と地域の効果的、継続的な協働活動の活性化を図るとともに、小・中学校及び高等学校等のコミュニティ・スクールと連携した効果的な取組を進めることとしています。
○ 高等学校のコミュニティ・スクールの取組において、地域に向け、障害等の理解促進、相談支援や協働活動など図る必要がある。	○ 関係課と連携しながら地域への障害及び障害児・者の理解を促進するとともに、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした取組を進め、共生社会の実現を目指していきます。

